

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：38001

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320133

研究課題名(和文) 戦後沖縄の平和運動に関する個人資料群の公開・活用モデルの構築と実証的研究

研究課題名(英文) An empirical research on the method for utilizing personal documents concerning the peace movements in postwar Okinawa

研究代表者

鳥山 淳 (TORIYAMA, Atsushi)

沖縄国際大学・総合文化学部・教授

研究者番号：60444907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：沖縄県伊江村で保管されている阿波根昌鴻資料について約1万5千件の目録データを作成し、沖縄国際大学に保管されている元コザ市長の大山朝常資料について約2千500件の目録データを作成した。その目録によって沖縄現代史研究にとって重要な資料を多数確認し、その内容をふまえた実証的な分析に取り組んだ。それと並行して重要性の高い資料の選別を進め、約200件についてスキャニングによるデジタル画像化を行って、今後の公開に対応できる状態とした。

研究成果の概要(英文)：Our research group made lists of documents based on two subjects: one is for Shyoko Ahagon (an activist in local residents movement and his documents are in the custody of the peace museum in Ie-Son, Okinawa) and we recorded about 15,000 materials. Besides, another is for Chyojo Oyama (former mayor of Koza, Okinawa and his documents are in the custody of Okinawa International University) and there are about 2,500 documents recorded.

By examining these lists practically, we found many important materials which certainly contribute to the studies of contemporary history of Okinawa. In addition, about 200 significant materials are selected to be digitized and scanned for the purpose of disclosing hereafter.

研究分野：沖縄現代史

キーワード：沖縄 平和運動 個人資料

1. 研究開始当初の背景

戦後沖縄社会に関する研究は、1995年に開館した沖縄県公文書館が米国占領期の行政文書(米国民政府文書、琉球政府文書)の公開を進めた結果、資料的な基盤が大幅に整備され、大きな進展を見せるようになっていく。しかし他方で、平和運動・社会運動において重要な役割を担ってきた運動団体・個人が作成した資料については、ごく一部が公的機関で閲覧できるものの、多くが未調査・未整理の状態であり、時間の経過とともに散逸が懸念される。その状況を改善して研究資源として活用を図ることによって、新たな視点と資料に基づく戦後沖縄史の構築が可能となると考えられる。

そのための具体的な取り組みの対象として注目したのは、伊江村での米軍基地建設に抵抗してきた阿波根昌鴻氏が収集し、同村にある「わびあいの里 反戦平和資料館」が保管してきた資料群である。以前から取り組まれてきた概要調査によって、保存箱で300箱を超える資料の存在が確認され、伊江村内での活動記録とともに、沖縄の諸団体が作成した文書が膨大に含まれていることが把握されていた。

その資料群についての詳細な調査と公開・活用を進めることによって、今後の沖縄戦後史研究にとって不可欠な資料的基盤を用意することになると判断したが、「わびあいの里 反戦平和資料館」は狭小な展示場しか持たず、またフェリーでの移動を余儀なくされる離島で閲覧要請に対応できる人的態勢を整えることはきわめて困難である。さらに大量の個人資料群を収蔵できる県内の研究機関も現時点では見当たらないため、今後の公開・活用を実現するには新たな方策と体制の構築が不可欠であると判断するに至った。

2. 研究の目的

本研究は、戦後沖縄の平和運動を捉えるうえで不可欠となる個人資料群の詳細な調査を行い、その主要部分をデジタル画像化して研究資源として活用する方法を検討するものである。その作業を通じて、主として占領文書・行政文書に依拠してきた従来の戦後沖縄史研究を実証的に塗り替えるとともに、類似の資料群の活用モデルを提示することを意図している。

個人が所蔵してきた現代資料群の保存・公開については、県内の各種図書館や公文書館での対応が困難になってきており、デジタル画像を中心とする新たな活用モデルの創出が不可欠である。

本研究が取り扱った資料群は、前述の阿波根昌鴻資料と、沖縄返還以前にコザ市長をつとめた大山朝常資料(沖縄国際大学南島文化研究所所蔵)である。阿波根昌鴻資料によっ

て、米軍の爆撃演習場がつけられた伊江島の住民運動および沖縄各地の平和運動の様相を捉えることが可能となる。それに対して大山朝常資料では、占領下の立法院議員として関わった諸案件や、嘉手納基地に隣接するコザにおける米兵相手の歓楽街の展開などに関する記録の存在が想定される。性格を異にする2つの資料群を調査対象とすることによって、占領と基地をめぐる問題について複眼的な歴史記述を可能にするような資料的基盤を創出することを意図している。

3. 研究の方法

本研究の取り組みは、(1)資料調査と目録作成、(2)資料分析と関連する聞き取り調査、(3)重要資料の選別とデジタル画像化に大別できる。

そのうち(1)については、資料群の詳細な調査と目録データの作成に取り組んだ。その作業にあたっては、資料群の原状をふまえた資料番号を付与するとともに、資料保存箱などを用いて必要な措置を施して、中長期的に保存・管理を継続する体制を整えた。

作成した目録データに依拠して(2)の作業を進めるために、阿波根昌鴻資料については「わびあいの里 反戦平和資料館」の関係者に対する聞き取り調査を交えて分析を進めた。そして同資料群の全体像を見渡しながら、平和運動を記述するうえでの必要性を重視して重要なテーマを設定し、関連する内容を含む資料リストを作成した。それによって、膨大な資料目録データから資料の有効活用に向けて不可欠な情報を抽出した。

テーマ別の資料リストに基づいて、(3)の作業として優先的にデジタル画像化を図るべき資料を選別し、スキャニング作業に取り組んだ。沖縄県内を中心とする関連機関の資料所蔵状況を参照しながら、優先的に活用を図るべき資料として「伊江島の基地問題資料」を選択し、年代順にデジタル画像化の作業に取り組みながら、活用方法について検討を行った。また大山朝常資料についても、同様に関連機関の資料所蔵状況を参照しながら、資料の選別を進めた。

なお上記の作業にあたって、膨大な分量の阿波根昌鴻資料については統一的な作業方針を確認・維持しながら取り組む必要があるため、各年度に2回の作業期間を設定し、研究代表者・分担者・連携研究者および研究協力者あわせて10名以上によって集中的に作業を実施した。

4. 研究成果

(1) 阿波根昌鴻資料に関する調査・分析

目録データが1万5千件を超える膨大な分量となったため、今後の有効的な活用を可能とするために、特定のテーマに関する資料リストを作成して情報の整理を行った。そのた

めに設定したテーマは、「伊江島基地問題」「伊江島以外の基地問題」「伊江村関係」「中央労働学院」「日記・雑記・メモ帳」であり、そのいずれもが関連機関における所蔵資料とは重要な記録を多数含んでいる。

さらに上記のテーマのうち、特に点数が多い「伊江島基地問題」と「伊江村関係」については、戦後初期から1980年代にかけて各年毎の資料リストに分類し、有用性の高い資料情報を把握することができた。

以上の資料リストに基づいてデジタル画像化の優先順位について検討を行い、「伊江島基地問題」としてリスト化された資料のスキミング作業に着手した。その結果、本研究期間内に以下の点数をデジタル画像化することができた。

1945-54年：7件 53枚

1955年：35件 247枚

1956年：13件 224枚

1957年：22件 95枚

1958年：13件 68枚

1959年：27件 102枚

1960年：35件 189枚

1961年：32件 119枚

また「伊江島基地問題」の1962年以降の資料および「伊江村関係」の資料についても、各年毎の資料リストに依拠してデジタル画像化を進める準備が完了しており、共通の方法で今後の活用に取り組むことが可能となっている。

阿波根昌鴻資料に関する上記の研究内容については、平成28年3月に伊江村で開催された「わびあいの里第14回学習会」において概要を報告し、研究の意義についての説明と今後の活用に向けた情報提供を行った。

また今後の公開・活用にあたって、当該資料に関する歴史的背景や資料的価値についての説明を付与する際には、研究代表者の複数の論考が、重要な研究成果として利用可能である。とくに1950年代の伊江島における土地接收とそれに反対する住民運動に関しては、「基地と抵抗」(『日本の安全保障4 沖縄が問う日本の安全保障』所収)および「土地闘争と女たち」(『沖縄県史 女性史編』所収)において、問題の具体的な経緯と当時の政治状況における意義に関する分析を加えており、それに依拠して資料の解説を提示できる(いずれも後掲の「主な発表論文等」一覽参照)。

(2) 大山朝常資料に関する調査・分析

目録データを活用しながら行った資料分析によって、「沖縄社会大衆党関連」「革新市政関連」「コザ市の都市計画関連」「基地関連産業への対応関連」「大山朝常の経済論関連」として資料群の特徴を把握した。

そのうえで、関連機関の資料所蔵状況を参照しながら個別の資料ごとに重要性を検証し、基地の街としての性格を有するコザ市の状況を反映した記録について、優先的にデジ

タル画像化を進めた。その資料の一部については、2名の研究協力者(秋山道宏・高江洲昌哉)が沖縄国際大学南島文化研究所の紀要において資料紹介として発表した(後掲の「主な発表論文等」一覽参照)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 8 件)

(1) 島山淳、沖縄戦から続く七〇年の不条理 - 基地問題の歴史的位相 -、歴史地理教育 847号、2016、48-55、査読なし

(2) 小屋敷琢己、運動の主体 と記録資料に向き合う主体的条件：沖縄・伊江島における阿波根昌鴻資料、社会文化研究 18号、2016、7-33、査読なし

(3) 秋山道宏、1960年代前半における大山朝常の経済論、南島文化 38号、2016、101-111、査読なし

(4) 高江洲昌哉、(大山朝常資料所蔵)「軍関係雇傭者の賃金引上請願決議」(和文・英文)を中心にして沖縄現代史の分析視角を考える、南島文化 38号、2016、113-127、査読なし

(5) 島山淳、基地問題と沖縄戦をめぐる沈黙化の行方、神奈川大学評論 82号、2015、42-50、査読なし

(6) 島山淳、先送りされ続ける「平和の到来」 - 占領下沖縄の経験をめぐって -、歴史学研究 934号、2015、10-19、査読なし

(7) 岡本直美、沖縄・阿波根昌鴻と一燈園との関わり：「一燈園香倉院資料」からみる関係の形成期、神戸外大論叢 386号、2015、149-164、査読なし

(8) 島山淳、沖縄戦体験記録の歩みと継承の可能性、東アジア社会教育研究 17号、2012、74-82、査読なし

〔学会発表〕(計 1 件)

(1) 島山淳、自治をめくり揺れ動く、占領下沖縄の「平和」、歴史学研究会シンポジウム「歴史学の課題としての戦後日本/平和主義」、2013年12月13日、慶応義塾大学三田キャンパス(東京都)

〔図書〕(計 9 件)

(1) 島山淳、土地闘争と女たち、沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史 女性史編』沖縄県教育委員会、2016、478-492

(2) 烏山 淳

「基地で働くひとびと - 占領下沖縄の不条理を生き抜く」栗原彬編『ひとびとの精神史 第3巻 六〇年安保』岩波書店、2015、287-312

(3) 烏山 淳、基地と抵抗、遠藤誠治・島袋純編『日本の安全保障4 沖縄が問う日本の安全保障』岩波書店、2015、111-138

(4) 烏山 淳、沖縄の占領と米軍基地、林博史編『地域のなかの軍隊6 九州・沖縄』吉川弘文館、2015、180-210

(5) 烏山 淳、『沖縄 / 基地社会の起源と相克 1945-1956』勁草書房、2013、275 (総頁数)

(6) 烏山 淳、占領という「世変わり」と自治の模索、沖縄国際大学公開講座委員会編『世変わりの後で復帰 40 年を考える』沖縄国際大学公開講座委員会、2013、105-134

(7) 烏山 淳、立法院発足前の沖縄群島、沖縄県議会事務局編『沖縄県議会史 第二巻 通史 編2』沖縄県議会、2013、65-127

(8) 藤波 潔、記憶と継承 記憶・保存・活用、沖縄国際大学公開講座委員会編『世変わりの後で復帰 40 年を考える』沖縄国際大学公開講座委員会、2013、251-272 頁

(9) 吉浜 忍、沖縄戦 - 壊滅から復興へ、沖縄国際大学公開講座委員会編『世変わり後で復帰 40 年を考える』沖縄国際大学公開講座委員会、2013、75-101

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

烏山 淳 (TORIYAMA, Atsushi)
沖縄国際大学 総合文化学部 教授
研究者番号 : 6 0 4 4 4 9 0 7

(2) 研究分担者

藤波 潔 (FUJINAMI, Kiyoshi)
沖縄国際大学 総合文化学部 准教授
研究者番号 : 2 0 3 2 8 6 5 2

吉浜 忍 (YOSHIHAMA, Shinobu)
沖縄国際大学 総合文化学部 教授
研究者番号 : 3 0 3 6 9 2 0 1

(3) 連携研究者

安藤 正人 (ANDO, Masahito)
学習院大学 文学部 教授
研究者番号 : 9 0 1 1 3 4 2 2

小屋敷 琢己 (KOYASHIKI, Takumi)
琉球大学 教育学部 教授
研究者番号 : 2 0 4 0 4 5 5 1

高橋 実 (TAKAHASHI, Minoru)
国文学研究資料館 名誉教授
研究者番号 : 2 0 2 9 6 1 8 0

(4) 研究協力者

高江洲 昌哉 (TAKAESU, Masaya)
秋山 道宏 (AKIYAMA, Michihiro)
宇根 悦子 (UNE, Etsuko)
山根 頼子 (YAMANE, Yoriko)
小禄 裕子 (OROKU, Hiroko)
新里 泰史 (SHINZATO, Yasufumi)
富善 一敏 (TOMIZEN, Kazutoshi)
山崎 圭子 (YAMAZAKI, Keiko)
畠山 典子 (HATAKEYAMA, Noriko)
高科 真紀 (TAKASHINA, Maki)
大澤 篤 (OSAWA, Atsushi)
小濱 武 (KOHAMA, Takeshi)
蓮沼 素子 (HASUNUMA, Motoko)
喜久里 瑛 (KIKUZATO, Aki)
渡嘉敷 紘子 (TOKASHIKI, Hiroko)
岡本 直美 (OKAMOTO, Naomi)